



Let's make three hints quizzes

守口市立錦中学校

教科	英語	単元名	関係代名詞（主格）
----	----	-----	-----------

本時のねらい

・関係代名詞（主格）を使って人物を紹介する文を作る。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・Teams 上でスライドを配信することで、各自のタイミングで復習ができる。
- ・Forms で復習問題を実施することで、結果が瞬時にフィードバックされ、自分の定着度をその場で確認できるとともに、教員も生徒の理解状況を瞬時に把握することができる。
- ・オクリンクプラスを使い、クラスメイトが考えた文を参考に自ら英文を書くことができ、表現の幅が広がる。また、誤りや間違いやすいポイント等を全体で共有することで、文法事項に対する理解を深める。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・マイシード（オクリンクプラス） ・Teams ・Keynote ・Forms

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	○本時の流れと関係代名詞の復習を、説明スライドを用いて全体で行う。 ○関係代名詞についての復習問題を Forms で答える。 【写真 1】	・関係代名詞の文の構造の説明（復習事項をまとめた Keynote）を Teams で配信しておくことで、生徒が好きなタイミングに何度も見返すことができる。 ・Forms で行うことで、結果が瞬時にフィードバックされるので、自分の定着度をその場で確認できる。
展開 (30 分)	○関係代名詞を使って、人物紹介の 3 ヒントクイズを作る。 ・オクリンクプラスにテンプレートとなるカードを送り、調べた情報をもとに、その人物を紹介する文を班で “This is a ○○ that S V ~.” の形で 3 文作る。 ○班で作った問題を全体で解いていき、答えが分かったものにはさらにヒントとなる 1 文を付け加える。 ○全体で答えを確認していく。その際に作った文を文法的観点でチェックする。 【写真 2】	・オクリンクプラス上で他者参照をすることで、自分の作った文の間違いに気づき、正しい文に修正していくことができる。 ・誤りや間違いやすいポイント等は、オクリンクプラス上のカードに教員が書き込みながら、リアルタイムで全体共有する。
まとめ (10 分)	○今回の活動で使った文に似た構造の文が載っている演習問題を解く。 【写真 3】	・オクリンクプラス上で教員が添削し、共有した英文も必要に応じて参考にしながら演習問題を解く。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 各自のペースで復習問題に取り組む



【写真 2】 他の生徒の英文も随時参考にしながら 3 ヒントクイズを作る



【写真 3】 オクリンクプラス上で共有した間違いも参考に演習問題に取り組む

児童生徒の反応や変容

前時の復習のスライドを Teams で送ったことによって、基本的な文法のルールを忘れていた生徒も、自身のタイミングで見返すことができていた。また、生徒が作った文について、誤りや間違いやすいポイント等をリアルタイムで共有したので、自分の間違いのみならず、他の生徒の間違いやすいところにも気づくことができた。3 ヒントクイズの班活動や、活動後の演習では、自分が主体的に作ったものに関わる活動なので、英語が苦手な生徒も普段より積極的に取り組んでいた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

Teams で復習スライドを配信することで、いつでも文法の内容を確認することができる。また、オクリンクプラスを使うことで、他の生徒の文を参考にすることはもちろん、誤りや間違いやすいポイント等を全体で共有し、後から自分のタイミングで何度も確認することができるようになる。Forms を使うことで、生徒もすぐにフィードバックを受けることができ、教員も生徒の理解状況を瞬時に把握することができる。